

平成22年度財務計算書類の概要

平成22年度財務計算書類は、平成17年度に改正のあった「学校法人会計基準の一部を改正する省令」を踏まえ、継続性の原則にしたがって会計処理を実施した。

学校法人会計は、文部科学大臣が定めた会計基準(昭和46年制定)にしたがって会計処理を行い、計算書類を作成するものである。私立学校振興助成法により国又は都道府県から経常的経費の補助を受ける学校法人に適用される。収益と費用から経営成績を把握することを目的とする企業会計とは異なり、教育研究活動が円滑に遂行されたか否かを知ることが目的とする。

1. 決算の概要

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書では、平成21年度決算における次年度繰越支払資金 22億4百万円が平成22年度に繰越されたことに伴い、前年度繰越支払資金及び次年度繰越支払資金の予算額を修正した総額 122億16百万円の予算となった。

平成22年度は、施設設備引当特定預金へ 5億50百万円、退職給与引当特定預金へ 3億50百万円、減価償却引当特定預金へ2億50百万円を計画どおり繰入れを行った。また、平成23年度への次年度繰越支払資金は、23億34百万円で予算額を 3億47百万円上回る結果となり、当該会計年度における学園の経営状況は、健全であると判断している。

①収入の部の主な概要としては、収入全体では、平成22年度予算を達成する決算額となり、学生生徒等納付金収入、資産売却収入、事業収入及び雑収入などは、予算を上回る収入となったが、一方、手数料収入、寄付金収入、補助金収入及び資産運用収入などにおいて予算を下回る決算となった。

主な内容としては、補助金収入における国庫補助金の特別補助において、「大学院教育研究高度化支援メニュー」の項目統合があり、予算計上していた「研究科特別経費」が削除されたことなどにより、予算額 9億3百万円に対し、決算額が 7億88百万円になったことなどである。

②支出の部の主な概要としては、新キャンパス・マスタープランに基づく学園整備計画の第Ⅰ期の3年目として、(仮称)新3号館、エネルギーセンター、新体育館建設工事料などを計画どおり実施した。また、事務組織改組に伴い、8号館事務局新設工事を行った。

人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出及び設備関係支出では、予算残となる決算額になった。

主な要因として、各部署における経費節減、複写機の導入形態の変更及び照明、空調等の省エネ対策による効果が現れてきていることなどによる予算残である。

資金収支計算書

[収入の部]

(単位:千円)

科 目	平成22年度 予算額	平成22年度 決算額	増 減
1 学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	4,855,000	4,869,763	△ 14,763
2 手 数 料 収 入	178,200	168,974	9,226
3 寄 付 金 収 入	53,000	41,633	11,367
4 補 助 金 収 入	903,900	788,358	115,542
5 資 産 運 用 収 入	131,500	128,488	3,012
6 資 産 売 却 収 入	300,000	806,469	△ 506,469
7 事 業 収 入	452,200	472,902	△ 20,702
8 雑 収 入	52,400	62,180	△ 9,780
9 借 入 金 収 入	2,000,000	2,000,000	0
10 前 受 金 収 入	845,800	879,399	△ 33,599
11 そ の 他 の 収 入	1,082,500	2,049,494	△ 966,994
12 資 金 収 入 定 調 整 勘 定	△ 842,400	△ 939,918	97,518
13 当 年 度 収 入 合 計	10,012,100	11,327,742	△ 1,315,642
14 前 年 度 繰 越 支 払 資 金	2,204,443	2,204,443	0
収入の部合計	12,216,543	13,532,185	△ 1,315,642

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

【資金収支予算書について】

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容及び支払資金の収支で、まづを明らかにしたものである。

平成22年度資金収支計算書(案)の総額は、135億32百万円となり、平成22年度予算額の122億16百万円と比較すると、13億15百万円の増となった。

【1. 学生生徒等納付金収入について】

予算どおりの収入となった。

【2. 手数料収入について】

予算対比 9百万円の減となった。

大学の志願者数を5000人で予算計上したが、達成しなかったことにより、8百万円減となった。

【3. 寄付金収入について】

予算対比 11百万円の減となった。

特別寄付金:麻布大学父母会 10百万円, 同窓会 3百万円, 企業等 41件からの奨学寄附金 19百万円である。

【4. 補助金収入について】

予算対比 1億15百万円の減となった。

国庫補助金:特別補助の見直しにより予算計上していた「研究科特別経費」が削除されたためである。

経常費: 3億27百万円, 特別補助: 1億18百万円, 利子助成: 23百万円

地方公共団体補助金:経常費: 2億50百万円, 学費補助金: 25百万円等

【5. 資産運用収入について】

予算どおりの収入となった。

受取利息・配当金:毎月分配型のダイワグローバル債券ファンドの分配金は 85百万円(H21: 78百万円)であった。

【6. 資産売却収入について】

予算対比 5億 6百万円の増となった。

地方債 3件が満期になったこと、平成18年購入の地方債 1件を売却し、利回りの良い商品を購入したこと及び平成19年購入の外国債 1件が早期償還となったためである。

【7. 事業収入について】

予算対比 20百万円の増となった。

附属事業収入:動物病院の診療収入は、リニアック入替工事の影響で予算対比 17百万円の減となった。

受託事業収入:企業等 50件からの受託があった。

【8. 雑収入について】

予算対比 9百万円の増となった。

退職者 6人の内4人に係る私立大学退職金財団及び神奈川県退職基金財団からの交付金などである。平成22年度定年退職者 1人分を見込んでいたが、自己都合による退職者3人分であった。

【9. 借入金等収入について】

日本私立学校振興・共済事業団から(仮称)新3号館建設資金としての借入であり、金利は1.8%である。

【11. その他の収入について】

予算対比 9億66百万円の増となった。

減価償却引当特定預金からの繰入収入:平成18年購入の地方債 1件を売却し、利回りの良い商品を購入したこと、満期切替時に利回りの良い銀行で運用するため、資金を一旦繰入

収入し、同額を繰入支出したためである。

【12. 資金収入調整勘定について】

本年度の期末未収入金と平成21年度の前受金収入である前期末前受金である。

【13. 前年度繰越支払資金について】

平成21年度決算における次年度繰越支払資金である。

〔支出の部〕

(単位:千円)

科 目	平成22年度 予 算 額	平成22年度 決 算 額	増 減
1 人 件 費 支 出	2,972,280	2,913,873	58,407
2 教 育 研 究 費 支 出	1,896,910	1,714,047	182,863
3 管 理 経 費 支 出	591,110	578,453	12,657
4 借 入 金 等 出 利 息 支 出	48,444	44,000	4,444
5 借 入 金 等 出 返 済 支 出	111,110	111,110	0
6 施 設 関 係 支 出	2,768,280	2,765,590	2,690
7 設 備 関 係 支 出	473,601	449,664	23,937
8 資 産 運 用 支 出	1,446,000	2,897,075	△ 1,451,075
9 そ の 他 の 支 出	215,000	215,582	△ 582
10 予 備 費	150,000	—	150,000
11 資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 443,175	△ 491,812	48,637
12 当 年 度 支 出 合 計	10,229,560	11,197,582	△ 968,022
13 次 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,986,983	2,334,603	△ 347,620
支 出 の 部 合 計	12,216,543	13,532,185	△ 1,315,642

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

【1. 人件費支出について】

予算対比 58百万円の予算残となった。
退職金支出:定年退職者1人と自己都合による退職者5人の6人であったため、21百万円予算超過した。

【2. 教育研究経費支出について】

予算対比 1億82百万円の予算残となった。
消耗品費:配分している予算の執行は、教員等に一任しているため、消耗品費、消耗備品費、機器備品費及び図書等に振り分けられ、消耗品費は45百万円の予算残となった。
光熱水費:省エネ対策の効果によるものであり、23百万円の予算残となった。
業務委託費:教育支援システム等に係る構築経費を計上していたが、リース備品として処理したため、31百万円の予算残となった。
賃借料:複写機の導入形態の変更及び教育支援システムに係るリース料が、リース備品として処理したため、49百万円の予算残となった。

【3. 管理経費支出について】

予算対比 12百万円の予算残となった。
賃借料:複写機の導入形態の変更及び基幹事務システムに係るリース料が、リース備品として処理したため、35百万円の予算残となった。
印刷製本費・広告費:学生募集のため、大学案内、入試要項を増刷及び広告案内したため、12百万円と10百万円の予算超過となった。
業務委託費:基幹事務システムに係る構築料を賃借料に計上していたが、業務委託費として処理したため、18百万円の予算超過となった。

【4. 借入金等利息支出について】

獣医学部棟建設資金の借入に対する借入利息34百万円と(仮称)新3号館建設資金の借入に対する借入利息10百万円である。なお、利子助成として、国庫補助金から23百万円を受け取っている。

【5. 借入金等返済支出について】

獣医学部棟建設資金の借入20億円に対する平成22年度元金返済分(3回目)である。

【6. 施設関係支出について】

予算どおりの執行となった。
建物:事務局新設工事71百万円、動物病院リニアック更新附帯工事 31百万円などである。
構築物:駐車管制装置3百万円などである。
建設仮勘定:(仮称)新3号館建築工事(第2・3回)などである。

【7. 設備関係支出について】

予算対比 23百万円の予算残となった。
教育機器備品:予算対比 38百万円の予算残となった。教育研究経費の消耗備品費の取得が多いことが要因である。
ソフトウェア:安否登録システム12百万円、第1期ネットワークシステム3百万円などである。

【8. 資産運用支出について】

予算対比 14億51百万円の予算超過になった。
有価証券購入支出:満期及び早期償還となった地方債等を再度購入したためである。
減価償却引当特定預金からの繰入支出:平成18年購入の地方債 1件を売却し、利回りの良い商品を購入したこと、満期切替時に利回りの良い銀行で運用するため、資金を一旦繰入収入し、同額を繰入支出したためである。

【10. 予備費について】

大科目での予算超過がなかったため予備費を使用しなかった。

【11. 資金支出調整勘定について】

本年度末の期末未払金 4億86百万円などである。

【13. 次年度繰越支払資金について】

平成23年度への繰越支払資金は、23億34百万円となる。

(2)消費収支計算書の概要

消費収支計算書の平成22年度決算は、消費収入の部合計57億18百万円、消費支出の部合計61億40百万円で、4億22百万円の支出超過となった。

①学校法人会計基準では、「(徴収不能額の引当て)第28条 金銭債権については、徴収不能のおそれがある場合には、当該徴収不能の見込額を徴収不能引当金に繰入れるものとする。」とあり、毎年附属動物病院の診療収入に徴収不能額が発生することから、本年度決算において消費収支計算書の支出の部に徴収不能引当金繰入額を設け繰入を行った。

②本学園の財政状況については、日本私立学校振興・共済事業団が行っている「定量的な経営判断指標に基づく経営状態」は、7段階の上から2番目のA2となっており、良好な経営状態である。平成22年度決算書においてもA2が想定されるので、本学園の財政状況は健全であると判断できるものとする。

消費収支計算書

〔消費収入の部〕

(単位:千円)

科 目	平成22年度 予算額	平成22年度 決算額	増 減
1 学生生徒等納付金	4,855,000	4,869,763	△ 14,763
2 手 数 料	178,200	168,974	9,226
3 寄 付 金	75,000	54,531	20,469
4 補 助 金	903,900	788,358	115,542
5 資産運用収入	131,500	128,488	3,012
6 資産売却差額	0	6,469	△ 6,469
7 事 業 収 入	452,200	472,902	△ 20,702
8 雑 収 入	52,400	62,180	△ 9,780
[A] 帰属収入合計	6,648,200	6,551,665	96,535
[B] 基本金組入額	△1,124,040	△833,584	△290,456
[C] 消費収入の部合計 ([A] + [B])	5,524,160	5,718,081	△ 193,921

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

【消費収支予算書について】

消費収支計算書は、学園の財政状況を表す計算書類であり、当該会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入及び消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示すものである。

【消費収入の部について】

消費収入の部の帰属収入は、学校法人の負債とならない収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入が含まれる。消費収入の部は、資金収支計算書とは違い、寄付金に現物寄付金及び基本金組入額が含まれている。

【3. 寄付金について】

現物寄付金:当該年度に現物寄付の物品を金額に換算し、計上した。
教員から科研費等で購入した備品 7百95万円、高校の22年度卒業生から麻布獣医学園アリーナ講演台 1百万円、図書 の寄贈 3百94万円である。

【[B]. 基本金組入額について】

学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして、帰属収入のうちから組入れた金額である。
帰属収入の合計額は65億51百万円[A]、基本金組入額は8億33百万円[B]となり、消費収入の合計額は57億18百万円[C]である。

基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金がある。

①第1号基本金:施設設備の整備拡充のために要した金額であり、平成22年度の組入額は、取得による組入額 9億84百万円、過年度の未組入高の組入 1億22百万円及び除却高 2億73百万円を相殺した 8億33百万円を組み入れた。

②第4号基本金:恒常的な資金の維持のための基本金であり、平成21年度における消費支出の部の合計金額から退職給与引当金繰入額及び減価償却額を除く金額を12で割った1月分の相当額を設定することとなっているが、本年度は組入を行わない。

〔消費支出の部〕

(単位:千円)

科目	平成22年度 予算額	平成22年度 決算額	増減
1 人件費	3,021,544	2,969,653	51,891
2 教育研究経費	2,626,910	2,450,130	176,780
3 管理経費	654,110	634,051	20,059
4 借入金等利息	48,444	44,000	4,444
5 資産処分差額	0	42,102	△ 42,102
6 徴収不能引当金繰入額	0	481	△ 481
7 予備費	100,000	—	100,000
[D] 消費支出の部合計	6,451,008	6,140,417	310,591
当年度消費支出超過額	926,848	422,336	—
前年度繰越消費支出超過額	3,306,510	3,306,510	—
翌年度繰越消費支出超過額	4,233,358	3,728,846	—

【消費支出の部について】

消費支出の部では、教育研究その他の諸活動に対応して消費した財貨と用役の額を示したもので、人件費、教育研究経費、管理経費等が含まれる。

消費支出の部は、資金収支計算書とは違い、人件費には、退職金に係る調整額として退職給与引当金繰入額及び退職金、教育研究経費及び管理経費には、減価償却額が含まれている。

【1. 人件費について】

退職給与引当金繰入額: 教職員の退職金は、本学園の退職給与支給規程により支給されるが、その教職員の退職の際に支払われるであろう負担額を消費支出(退職給与引当金繰入額)として計上し、負債として認識することが、消費収支の持続的均衡を維持する上から必要とされる。退職給与引当金は、決算で貸借対照表の負債の部に含まれる。

退職金: 退職者に支給される退職金(資金収支予算書退職金支出)から、退職者の退職給与引当金を差引いた額が含まれている。

【5. 資産処分差額について】

資産の除却による経費で建物、教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書及び車輛などの除却である。

【6. 徴収不能引当金繰入額について】

動物病院の診療収入における過年度分の未収入金額のうち、徴収不能になりうる額である。

【収支差額について】

帰属収支差額[E]: 帰属収入[A]から消費支出[D]を差し引いた額で、4億11百万円の収入超過となり、帰属収支差額比率(E/[A])は、6.3%になる。

消費収支差額[G]: 消費収支計算書における収支の均衡状態は、消費収入[C] 57億18百万円と、消費支出[D] 61億40百万円の差額で、4億22百万円の支出超過になる。

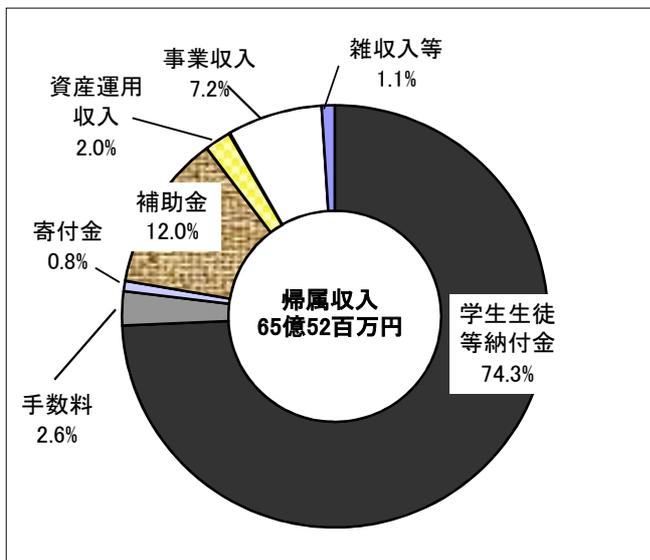
〔収支差額〕

(単位:千円)

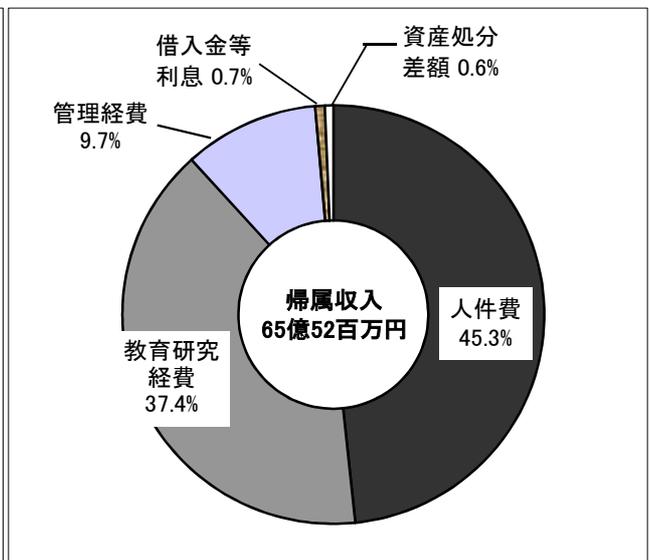
[E] 帰属収支差額 ([A] - [D])	197,192	411,248	△ 214,056
[F] 帰属収支差額比率 ([E] / [A])	3.0%	6.3%	△ 3.3%
[G] 消費収支差額 ([C] - [D])	△ 926,848	△ 422,336	—

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

帰属収入の構成比率



帰属収入に対する消費支出の構成比率



《H22年度帰属収入決算額及び構成比率》

(単位:千円)

科目	決算額	構成比率
学生生徒等納付金	4,869,763	74.3%
手数料	168,974	2.6%
寄付金	54,531	0.8%
補助金	788,358	12.0%
資産運用収入	128,488	2.0%
資産売却差額	6,469	0.1%
事業収入	472,902	7.2%
雑収入	62,180	1.0%
帰属収入合計	6,551,665	100.0%

H22年度帰属収入に対する消費支出の構成比率

(単位:千円)

科目	決算額	構成比率
人件費	2,969,653	45.3%
教育研究経費	2,450,130	37.4%
管理経費	634,051	9.7%
借入金等利息	44,000	0.7%
資産処分差額	42,102	0.6%
徴収不能引当金繰入額	481	0.0%
消費支出合計	6,140,417	93.7%

(3)貸借対照表の概要

貸借対照表は、年度末(平成23年3月31日現在)における学校法人の財政状態を示す計算書類であり、資産、負債、基本金及び消費収支差額に属する項目を金額で表示している。

資産とは、教育研究活動に使用される学校法人の財産であり、負債とは、その財産の調達先のうち、将来返済しなければならない債務である。基本金と消費収支差額は、調達資金のうち法人外部へ返済の必要のない学校法人に完全に帰属する資金総額であり正味財産(自己資本)と呼ばれている。

このように、貸借対照表は、財産の運用形態と資金の調達源泉をまとめて一表にしたものであり、次の等式が成り立っている。

$$\text{資産の部} = \text{負債の部} + \text{基本金の部} + \text{消費収支差額の部}$$

貸借対照表

〔資産の部〕

(単位:千円)

科目	平成22年度 決算額	平成21年度 決算額	増減
1 固定資産	28,074,621	25,525,040	2,549,581
2 有形固定資産	19,303,388	16,910,444	2,392,944
3 その他の固定資産	8,771,233	8,614,596	156,637
4 流動資産	2,423,843	2,319,366	104,477
5 資産の部合計	30,498,464	27,844,406	2,654,058

【1. 固定資産について】

平成21年度決算と比較すると、資産の部の有形固定資産は、建物の減価償却による減及び教育研究用機器備品等の除却による減並びに建設仮勘定等の取得を相殺し全体では、23億93百万円の増加、一方、その他の固定資産では、退職給与、減価償却引当特定預金及び資産などへの繰入並びに施設設備引当特定預金の取崩しを相殺し、全体では1億56百万円の増加となった。

【4. 流動資産について】

流動資産では、1億4百万円の増加となり、資産の部全体では、26億54百万円の増加となった。

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

〔負債の部〕

(単位:千円)

科 目	平成22年度 決算額	平成21年度 決算額	増 減
6 固 定 負 債	5,452,822	3,281,448	2,171,374
7 流 動 負 債	1,347,632	1,276,195	71,437
8 負債の部合計	6,800,454	4,557,643	2,242,811

【6. 固定負債について】

負債の部の主な減少の要因は、固定負債の長期借入金20億円の借入を行ったため、全体では22億42百万円の増加となった。

〔基本金の部〕

科 目	平成22年度 決算額	平成21年度 決算額	増 減
9 第 1 号 基 本 金	26,974,856	26,141,273	833,583
10 第 4 号 基 本 金	452,000	452,000	0
11 基本金の部合計	27,426,856	26,593,273	833,583

【11. 基本金の部合計について】

基本金の部は、第1号基本金 8億33百万円を組入れ、本年度の第1号基本金は269億74百万円となり、本年度末の基本金の部合計は、274億26百万円である。

〔消費収支差額の部〕

科 目	平成22年度 決算額	平成21年度 決算額	増 減
12 翌年度繰越 消費支出超過額	3,728,846	3,306,510	422,336
13 消費収支差額の部 合計	△3,728,846	△3,306,510	△ 422,336

科 目	平成22年度 決算額	平成21年度 決算額	増 減
14 負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	30,498,464	27,844,406	2,654,058

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

2. 財産目録について

財産目録では、資産総額 304億98百万円から負債総額 68億円を差引いた正味財産は、236億98百万円となり、平成21年度と比較すると 4億11百万円の増加となった。